

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193500113		
法人名	株式会社 きずな		
事業所名	グループホーム きずな		
所在地	北海道登別市新生町3丁目21番地8		
自己評価作成日	平成 27年 1月 日	評価結果市町村受理日	平成27年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームが設立している場所は住宅街の真中にあり、地域住民と密接した環境にあります。事業目的及び運営方針を基本に「家庭的で穏やかな雰囲気」のなか、ご利用者様がどのような生活を求めているのかを常に意識し、安心や満足を目指した支援を提供していきたいと考えております。また、信頼関係を醸成しながらご利用者様をはじめ、ご家族様にも第二の自宅として認められるホームづくりを追求して参りたいと考えております。今後も同様に地域密着型のグループホームとしての「役割」と「初心の心」を忘れず、これまで以上に地域住民との交流を深めながら、在宅生活の延長線にある事を思い、毎日が楽しく、笑いの絶えないアットホームなグループホームを根差していきます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tue&JigyosyoCd=0193500113-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 27年 1月 30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【地域との交流推進】
4年前開設の比較的新しいホームですが、町内会諸行事への参加など施設長を中心とする職員の努力によって住民によるケーキ等の差し入れ、花壇の手入れ、絵画展示などホームとの相互交流が進んでおり、地域の一員としての存在感があります。
【利用者に寄り添ったケアサービス】
職員が作成した理念を理解し、理念に沿ったケアサービスに徹しているため、利用者や家族は、明るく家族的雰囲気の中で利用者の気持ちを理解し、優しくキメ細かいお世話をしていると感じています。
【設備の充実した居住空間】
4年前に新築した建物は、居間兼食堂や廊下などの明るくゆったりとした共有空間とクローゼット・テレビ・寝具とベット、電動換気扇が設置されている居室など利用者にとって安心して暮らしやすい設備の充実したホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に関覧できるように、スタッフルーム内、または玄関に理念及び方針を掲示しているが、職員全員が内容を理解し、共通言語として実践できるよう更に取り組みが必要と考えている。	地域との関わりと利用者の居心地の良い暮らしを支援する介護理念を職員が作成し、ホーム内に掲示しています。さらに、日常業務やミーティングを通して理念に基づくケアを確認し、実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や徘徊模擬訓練を行う中で、地域の方達やボランティア活動の協力を頂いている。更に町内会が催している祭りや新年会などの行事にも地域の一員として参加している。	ホーム開設後の短い期間ながら町内会行事への参加などホーム側からの積極的な働きかけによって、地域住民による差し入れ・絵画展示・花壇手入れ・ボランティア来訪などの相互交流があり、地域との連携が進んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	徘徊模擬訓練や地域包括との連携を図りながら、地域住民にも認知症への理解や支援方法（認知症介護「家族のつどい」他）などの実践を通してアドバイスできるよう取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民、民生委員、地域包括職員が集まり、ホームで取り組んでいる経過や情報提供・意見交換を行いアドバイスを頂きながら日々の運営に取り組んでいる。	運営推進会議は市及び地域包括支援センター職員、町内会関係者、一部家族が参加して開催していますが、今年度はホーム側の諸事情により開催回数が少なくなっています。会議では報告事項と参加者との意見交換を行い、ホーム運営に反映させるよう取り組んでいます。	運営推進会議の定期的開催と家族に会議の意義を理解していただき、利用者と共に会議への参加を促進するため全家族への議事録送付を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会に参加して頂き、市からの情報提供をもとにケアサービスに繋げている。	運営推進会議には地域包括支援センター以外に市職員も参加しています。施設長は行政担当窓口へも随時訪問して相談や情報交換を行い、市関連の会合の講師を引き受けるなど行政との協力関係が築かれています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠は行っていない。自由に出入りが出来る環境になっている。日頃のケアが身体拘束に当たるかどうか、都度環境面と対応（関わり・言動）について検討を行いスタッフ間で共有を行っている。	職員は、外部研修への参加や業務を通して身体拘束をしないケアの理解と実践に務めています。ホーム内部での関連勉強会やマニュアル整備は準備の段階です。玄関の施錠は、夜間帯のみで、玄関の出入りは内部や事務スペースから見通しの良い建物構造です。	身体拘束をしないケアのマニュアルを早急に整備すると共に関連の勉強会も職員が役割分担（研修・防災・広報など）し、研修部会が担当する勉強会で身体拘束防止関連の知識を職員が習得し、ケアサービスに活かすことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止をテーマとする研修等には参加できていないが、職員間での話し合いの中で虐待に繋がらない様、防止に努めている。高齢者虐待防止への理解についてまだまだ希薄な為、課題である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度への理解について、今後も研修会や勉強会を通して、職員間のスキルアップに努めていきたい。更に必要な時に支援できる体制を整備していかなくてはならないと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する際には入居者・家族に不安が残らない様、説明を行い理解の中で同意を得ている。都度ご家族には、入居者の状況について報告し、納得が得られる様に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所の際には、入居者の様子を説明し、理解を得ながら情報提供と交換を密に図っている。	利用者の家族来訪が多いので、来訪の際には施設長や職員が率直に話し合いをしています。また、毎月発行のホーム便りや電話等で家族との連絡を密に取るよう努めています。家族からの要望等は内部で検討し、速やかに解決するようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々、個別に面談を行い意見を聴取しつつ、可能な限り運営に反映させている。スタッフ間でのコミュニケーションは更に深めていきたいと考えている。	施設長や管理者は、職員と自由に話し合えるよう関係づくり努めており、利用者を含めた良好な人間関係が出来ています。施設長と管理者による個別面談においても職員から意見や提案を聞く機会があり、ホーム運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、人事評価を用より、また就業規定に基づき評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加するよう働きかけながら、スタッフ個々の力量に合わせて教育指導を行い、意欲や技術向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム広域連絡会やケアマネ連絡会を通して、他事業所の職員と交流を図っている。また、情報交換をもとに質の向上にも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に居宅へ訪問し、生活の様子を確認している。生活歴などの情報や本人からの要望に基づき新しい環境に慣れて頂けるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族来所時には、都度近状報告を行っている。必要に応じて面談も行い、不安や要望を受け入れつつ信頼関係の形成を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の様子に変化が現れた場合には、本人を含め家族と情報を密に図り、必要に応じて医療機関への受診を促している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の個別の主体性を活かし、ペースに合った暮らしを提供している。入居者が主役な為、常に後ろから支えられるようなケアを提供できるように心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来所時には必ず近状報告を行っている。情報交換の内容は家族・職員間で共有している。行事等を通して入居者が家族と共に過ごせる時間を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の一員として町内会の活動や行事に参加し、ホームでの畑作業や雛人形の飾りつけ等では、近隣の地域住民にも協力と参加をもって、一緒に作業を行っている。	ホームの近くに住んでいた利用者も多いため、町内会行事などの外出時に知り合いの住民と出会ったり、行きつけの店で買い物や飲食店など馴染みの関係継続を支援しています。利用者を訪ねてきた来訪者も歓迎してゆっくりと過ごせるよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格を考慮し、利用者同士が関わりあえる環境づくりに取り組んでいる。また、トラブルに発展しない様、職員が仲介して状況を見守っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した入居者の家族に連絡し、経過状況を確認したり必要に応じて相談対応する等、フォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何気ない会話の中から入居者の思いや要望に耳を傾け、出来る限り本人本意の生活が送れるように努めている。	職員は利用者の話に耳を傾け、表情や動作から思いや意向を把握していますが、困難なときは家族や職員間の相談、各種記録情報の確認などを行い、本人が望まない事は避けるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活の状況を本人からだけでなく、家族から情報を収集し、より良いケアサービスを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の出来事を記録に残し、職員間で共有している。生活上に変化があれば、当然にも把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行っている。日頃の情報をシートにまとめ、不定期ではあるが話し合いを通じてケアの方向性を確認し、ケアプランにも反映させている。	ケアプランは3ヵ月毎にモニタリングを実施し、ミーティングで情報シートを参考にしながら協議して定期見直しをしています。ケアプラン変更が必要な際は、家族や利用者の要望等を聞きながら作成し、全職員が変更内容を十分把握するよう留意しています。	介護経験の少ない職員も多いので、ケアプランに基づく日常のケアサービスを確実に実施するため、検討中のプランとケア記録を連動させるフォームを完成させ、ケアに反映させることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送りノートを活用して職員間で共有している。介護計画実践については、十分に行えていない為、どのように位置づけするのか、改めて検討が必要である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や通院など入居者の要望に対して即対応できるようにしている。更に町内会の行事やホームが企画した行事に於いても家族の協力を得ることが出来ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会のイベント等の参加については、入居者の体調を考慮しながら支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ病院を継続し、医療機関との連絡調整を行いつつ、ご家族の付き添いをもって受診の協力を得ている。状況によっては協力病院との連携を図り、ご家族へ説明し同意を得た上での受診も勧めている。	ホームへの定期訪問診療は、医療機関の事情で実施されていないためかかりつけ医を利用し、受診には家族対応又は職員が支援しています。看護職員による利用者の健康チェックも行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師が配置されている。密に情報交換し、医療管理対応を行っている。また、訪問看護ステーションとの連携をもって月2回の訪問と24時間体制のオンコール体制を確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーと連絡を密に行い、情報交換をもって家族へ経過状況の確認に努めながら、退院後のホーム生活に支障が出ない様、対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、重度化した場合の指針の説明を事前に行っている。	重度化の指針を作成し、利用者の入居時に説明して同意書を頂いています。看取りについては指針作成や職員の関連研修を含めて検討中で、今後の課題となっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については、マニュアルを作成しているが、定期的な確認や見直しの必要がある。緊急時の対応について、再度職員間でもスキルアップに繋がられる様、勉強会等の企画に取り組んでいきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中想定と夜間想定避難訓練を年2回実践している。地域住民の方や消防署の協力のもと防災訓練を実践し、毎回総評を受けている。	年2回の避難訓練を消防署の協力の下に実施し、住民も参加協力しています。災害用の備蓄品も準備し、停電に備えて発電機も設置しています。	災害対策は、グループホームにとって大きな課題の一つですので津波など自然災害に備えた対策を今後も慎重に研究し、定期訓練以外の自主訓練実施についても検討を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、各入居者に合った言葉掛けや対応を行なう様、日頃の申し送り等の時間を用いて確認している。	利用者のケアサービス時に、人格尊重とプライバシー確保について申し送りやミーティングで話し合っています。施設長や管理者も業務を通してその必要性を職員に伝えていきます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の要望や意見を汲み取りながら、自己決定に結びつけた支援に心掛けている。意思表示が困難な場合には、根気強く本人の表情や反応を受け止めながら、対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先せず、入居者のペースに合わせて環境づくりに心掛けている。入居前の在宅生活に近い環境でホーム生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の利用や顔そり等の整容には、毎日適宜行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所に入り食事の準備や食器洗い等を職員と共に行なっている。また、嗜好に合わせて適宜献立の見直しを栄養士と相談しながら行っている。	栄養士の職員による栄養バランスを配慮した献立ですが、利用者の嗜好等も配慮して調理しています。職員は弁当持参ですが、利用者と一緒に食事を取り、和やかに過ごしています。また、外食の機会もあり、利用者の楽しみとなっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事量は毎日記録に残しているが、嗜好や状況に合わせて十分に提供ができていないと見えない為、更なる工夫が必要であると考えている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に毎食後の口腔ケアや就寝前の義歯洗浄・管理を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを職員間で共有し合いながら対応している。今後も紙パンツ・パッドの使用を軽減できる様、自立に向けた支援を実践していきたいと考えている。	利用者一人ひとりの排泄パターンをチェック表で把握し、それぞれに合わせた声かけ誘導でトイレ排泄を実現しています。下着類も利用者の状態に合わせて出来るだけ布パンツ着用となるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な水分摂取や乳製品の摂取量と運動を取り入れながら便秘対策に繋げている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の予定は立てているが、入居者の気分や体調に合わせて時間帯やタイミングを図りながら柔軟に対応している。	入浴は、利用者の希望に応じて日中の時間帯に実施し、原則週2回の入浴を目途としています。入浴を拒む利用者には日時変更や時には家族の協力を頂きながら身体の清潔維持に努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の習慣や要望に応じて休息を促している。更に寝具を工夫することにより、安眠に繋げている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理表や薬状で名称等の確認ができるようにファイル化されている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や日頃の様子から少しずつ興味を引き出しているが、十分に伝えられていない為、今後の課題である。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時には、都度職員並びに家族の付添いのもとで一緒に外出している。一人で散歩に出掛けている入居者も居る。時間や散歩のルートを確認しながら見守りを行なっている	天候状態に合わせてホーム周辺の散歩や買い物、お祭りなど町内会行事に出かけています。さらにドライブや飲食店、花見や公園見学に出かけたり、家族と墓参りなどもあり、利用者の外出機会を多く持つように心がけています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方以外は、家族からの要望があればホームの金庫で管理を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時間帯に考慮しながら、自由に電話の利用できる環境を整えている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせたフロア内の飾り付けや各行事ごとのレイアウトにも工夫しながら環境整備に取り組んでいる。	ホーム内部は広くて見通しが良く、開放感があります。ゆったりとした居間兼食堂には絵画、行事の写真などが程よく飾られ、季節に応じた飾りも適宜実施されており、利用者も日中は、この共有空間でのんびりと過ごしています。浴室やトイレ、洗面台も利用しやすい構造で清潔に維持されています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルを設置し、自由にくつろげる空間の整備に努めている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用してきた物や慣れ親しんできた物を設置することで、本人が居心地の良い環境で生活が送れるよう対応している。	十分な広さを持つ居室には、クローゼット、テレビ、寝具とベッド、電動換気扇が設置されており、充実した居住環境にあります。利用者は使い慣れた物品を自由に持ち込んで配置し、居心地良く暮らしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング、トイレ、浴室には手すりを設置し、歩行の不安定な方でも安心できるように配慮している。フロア内は照明も行き届いている。			